

京都高等工芸学校シリーズ6

生誕170周年記念

浅井忠

駆け抜けた

京都時代

—洋画とデザイン
の境界をこえて



Kyoto College of Technology Series 6 170th Birth Anniversary Exhibition:

Asai Chu's Kyoto Years

—Transcending the Boundaries of Western-style Painting and Design



2026年 11月9日(月)－1月23日(土)

会場 京都工芸繊維大学美術工芸資料館

休館日 日・祝日(ただし12月13日(日)は開館)、
12月25日(金)－1月5日(火)、1月16日(土)

開館時間 10時－17時(入館は16時30分まで)

入館料 一般200円 / 大学生150円 / 高校生以下無料

京都工芸繊維大学

美術工芸資料館
MUSEUM AND ARCHIVES

京都工芸繊維大学
KYOTO INSTITUTE OF TECHNOLOGY

主催 京都工芸繊維大学美術工芸資料館

協力 京都・大学ミュージアム連携



京都高等工芸学校シリーズ第6弾は、本年生誕170周年を迎える同校図案科の初代教授をつとめた洋画家浅井忠(1856-1907)をとりあげます。工部美術学校での研鑽を経て、明治美術会を軸に東京で活躍後、東京美術学校西洋画科の教授に就任した浅井は、1900年に洋画研究のためフランスへとわたりました。華やかな万博が開催されていたパリでアール・ヌーヴォーに魅せられた浅井は、帰国後、明治35年(1902)に開校した京都工芸繊維大学の前身校、京都高等工芸学校に赴任し、デザインの世界へ足を踏み入れました。同校で、新しいデザイン手法の基礎となるデザイン指導を担う一方、「黙語」の雅号で、陶器や漆器の図案を手がけ、遊陶園や京漆園といった研究団体をつうじて京都の工芸作家たちと斬新な作品を世に送り出しました。また明治40年には、自身の図案による陶器店「九雲堂」を祇園に开店させ、伝統的な意匠を好む京都の人々に新しい風を吹き込みました。

本展では、最晩年の油画の大作《武士山狩図》から「九雲堂」の商品まで、洋画家として、また図案家として、後進の育成と京都の伝統産業の近代化に力を尽くした浅井の活躍を、館蔵コレクションをつうじて振り返ります。本学が誇る浅井忠の作品の数々をぜひお楽しみください。



1



2



3



4



5



6

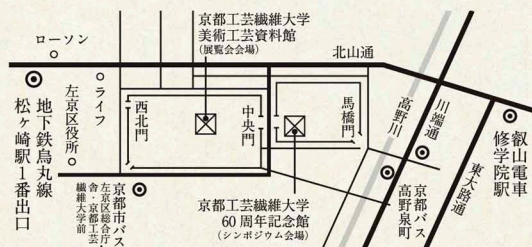
- 1 浅井忠《猪図(文箱図案)》1905-06 AN.34391
- 2 浅井忠図案、迎田秋悦製作《七福神時絵菓子器》1909 AN.1620
- 3 浅井忠図案、四代清水六兵衛製作《遊陶園》《菊文様皿》1907頃 AN.5461
- 4 浅井忠図案(九雲堂)《植物図急須・湯呑》1907頃 AN.5856
- 5 浅井忠図案《置物(鶉、蛙、鶏、羅漢)》1907頃 AN.5905
- 6 浅井忠図案(九雲堂)《松園小皿》1907頃 AN.5877

表面：浅井忠《武士山狩図》1905 AN.3279

お問い合わせ：京都工芸繊維大学美術工芸資料館
〒606-8585 京都市左京区松ヶ崎橋上町
TEL：075-724-7924 <https://www.museum.kit.ac.jp/>

交通

- ・市営地下鉄烏丸線「松ヶ崎駅」下車1番出口から徒歩約8分
- ・京都バス「高野泉町」下車徒歩約10分
- ・叡山電車「修学院駅」下車徒歩約15分



シンポジウム

「浅井忠 ふたつの顔—洋画家と図案家」

日時：2026年12月13日(日)13:00～16:30(開場12:30)

会場：京都工芸繊維大学60周年記念館1階記念ホール

入場無料・申込不要(先着160名程度)

※ただし展覧会の見学には別途入館料が必要です。

- | | |
|-------------|--|
| 13:00- | 開会の挨拶 |
| 13:15-14:15 | 基調講演「明治の洋画家 浅井忠の仕事」
古田亮(東京藝術大学大学美術館・教授) |
| 14:15-15:15 | 報告「図案家としての浅井忠」
和田積希(京都工芸繊維大学美術工芸資料館・
特任専門職(学芸員)) |
| 15:15-15:30 | 休憩 |
| 15:30-16:30 | ディスカッション
司会：並木誠士(同館・特定教授) |
| 16:30 | 閉会の挨拶 |

※終了後、展覧会をご覧いただけます(～17:30)。

同時開催：「版と刷りと広告と Printed Matter」

会期：2026年11月9日(月)～1月23日(土)

